

広島大学工学部 正会員 網干 寿夫
 同 同 松田 博
 同 同 ○新倉 博

1. まえがき

まさ土斜面崩壊の発生に関する重要な要因の1つに、まさ土風化層厚があり、著者の1人(網干)は呉市での崩壊斜面の調査結果より、①. 斜面崩壊の大部分は、崩壊層厚が数 10 cm という表層すべり型崩壊である。②. 斜面勾配に対し、限界風化層厚が存在する。(図-1)③. 崩壊土のコーン貫入抵抗(φ_c)は4%程度以下、乾燥密度(γ_d)は約1.5%以下であることを指摘している。従って、 $\varphi_c \leq 4\%$ のやるいまさ土層が存在する斜面の風化層厚を容易に測定することができれば、崩壊を予知するうえで非常に有効である。

本報告は、超音波測深装置を用いて、まさ土の弾性波(P波)速度の特性を調べ、また、屈折法により現地まさ土斜面の風化層厚測定を行なったものである。その結果、本測定法によって、風化層厚測定が可能であるとの結論を得たので、その概要を報告する。

2. 超音波測深装置

超音波測深装置は、図-2に示すように、高性能加速度計記憶観測部・増幅アンプ部などから構成されており、いくつかの優れた特性を持っている。その1つは、高性能加速度計によって、高感度で波形が把えられることであり、また、他の1つは記憶観測部によって、波形解析が極めて容易になったことである。

3. 弾性波(P波)速度の特性

図-4は、図-3の性質をもつまさ土を用い、含水比を5~20%，密度を1.3~1.8%と変化させた時のP波の伝播速度の違いを示したものである。この図より、①. 同一含水比で緻密化したまさ土のP波速度は、乾燥密度が大きいほど大となり、この変化の割

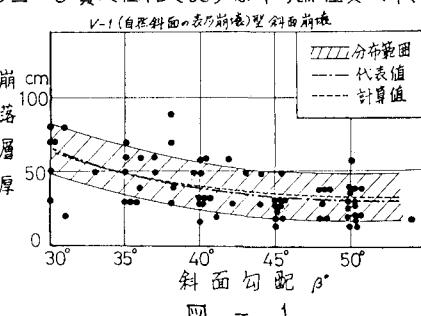


図-1

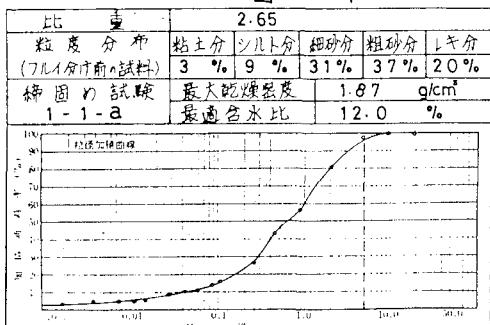


図-3. 試料の特性

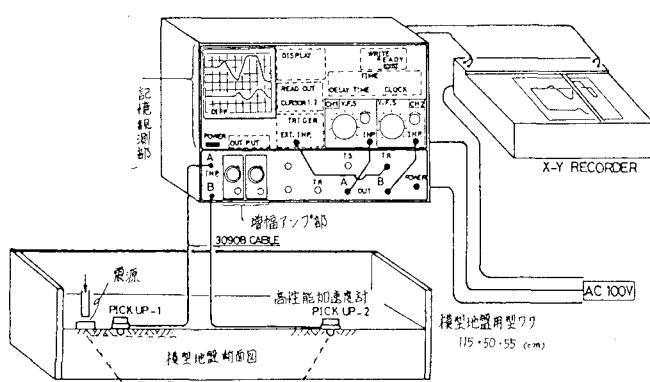


図-2. 超音波測深装置

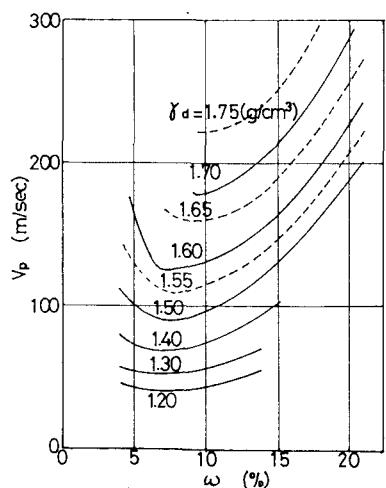


図-4

合は、乾燥密度が 1.5 %_m を越えると急激に増大する。②. 同一乾燥密度に締め固めたまさ土の P 波速度は、含水比が 7 ~ 10% で極小値を示し、含水比の変化に対する P 波速度の変化はかなり大きい、ことが明らかである。尚、これらの傾向は谷本らの結果とほぼ一致する。

4. まさ土斜面の風化層厚測定

呉市三津峰山のまさ土斜面において、超音波測深装置による風化層厚測定を行なった。現地は図-5に示すように、斜面の平均勾配は 44° で、コーン貫入試験の結果、ゆるいまさ土風化層が約 20cm 存在している。測定は、A 地点と B 地点との 200cm 間を対象とし、基点の Pick up から 10cm 離れた所に振動（カケヤの打撃）を加え、基点から 10cm, 20cm, … の距離を伝達する弾性波の伝達時間をそれぞれ測定した。図-6 は、測定波形の 1 例を示したものであり、各 Pick up の伝達時間は矢印で示した位置を採用した。また、図-7 は走時曲線を示したものであり、この図より、①. まさ土風化層はミラージュ層を形成している傾向がある。②. I, II を図のように定め、A, B 間を平行 2 層構造として、式(1) で風化層厚を求める。

$$Z = \frac{X_c}{2} \sqrt{\frac{V_1 - V_0}{V_1 + V_0}} \quad \dots \dots \dots (1)$$

X_c ; 臨界距離

$Z = 20.6\text{cm}$ を得る。この結果を図-5 のコーン貫入試験の結果と比較すると、やや密な層の境界と大略一致する。③. 現地の含水比・密度 ($\omega = 18.64\%$, $\rho_a = 1.446\text{g/cm}^3$) において、P 波速度は 245 % 程度が得られたが、この結果を図-4 の同一含水比・同一密度の結果 ($\rho_a = 155\%$) と比較すると、かなり大きい値となる。従って、風化の程度により、P 波速度は大きく異なるものと思われる。

5. あとがき

本報告は、超音波測深装置を用いて、まさ土風化層厚測定を行なったものである。その結果、本測定法において、まさ土風化層厚を大略把握することが可能である。しかし、今回実施した方法は屈折法によるものであり、迅速な測定法という観点からいえば、必ずしも十分とは思われない。従って、今後はより迅速な測定法の研究・開発を進める所存である。末筆ながら、本研究において測定を手伝って頂いた松永悟君、呉工専の小堀慈久氏に感謝するとともに、研究の実施にあたり文部省科学研究費の補助を受けたことを付記する。

6. 参考文献

- 1). H. ABOSHI : "FAILURE OF GRANITE SLOPES IN CHUGOKU DISTRICT UNDER HEAVY RAIN : SHEARING STRENGTH AT FAILURE" JOUR. of Natural Disaster Science, Vol.1, Number 1, pp.77-87, 1979
- 2). 谷本 喜一 ; 風化花崗岩とまさ土の工学的性質とその応用 土質工学会稿 pp.230.

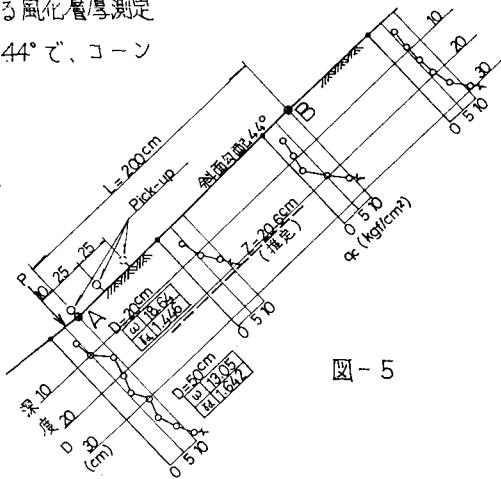


図-5

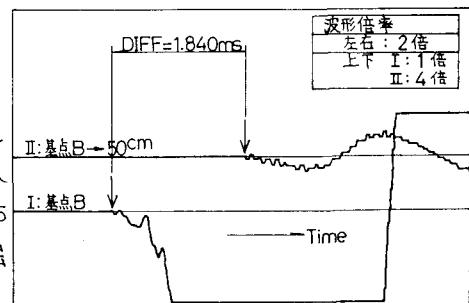


図-6

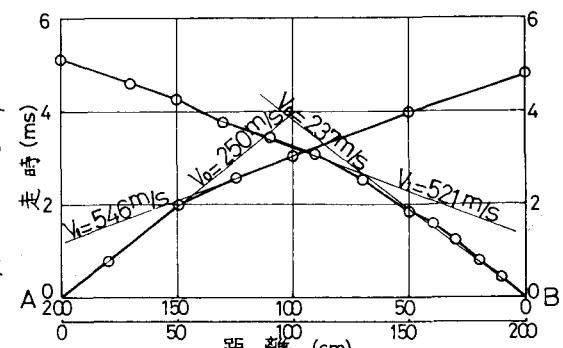


図-7